



内山美穂子 議員
(拓政会)



かつてのチロットコタンがあつた千住地区の「蝦夷文化考古館」やアイヌ民族の交流施設「生活館」については、国のアイヌ政策推進交付金を活用して老朽化した現施設を更新し、令和8年に複合型多機能施設として開館予定である。しかしながら、将来人口や町の財政状況を踏まえると施設の維持管理や運営に関わった大きな課題があり懸念する町民も多い。

- 施設で展示保管する町の指定文化財を守り、後世に伝え、地域振興につなげていくためには町民との情報共有と町民理解を深めることが重要である。このことから以下について伺う。
- (1)生活館棟工事入札中止の経緯について。
 - (2)施設の建設費について。
 - (3)幕別町公共施設等総合管理計画との整合性について。
 - (4)施設の屋根の形状と維持管理について。
 - (5)ソフト事業をどう展開していく

問

アイヌ文化拠点施設と関連する諸課題について

答

十勝全体のアイヌ文化をリードする施設となるよう各種事業に取り組んでいく

のか。

- (6)施設の管理運営は。
- (7)施設の果たすべき役割は。

町長

アイヌ文化の伝承・情報発信と交流の拠点として、十勝地域全体のアイヌ文化をリードしていく施設にしたいという思いを持って、アイヌ文化拠点施設の整備を進めている。

- (1)入札公告後に、配合試験等および屋根の地下工事期間が工程に含まれていないことが判明したため再算定した結果、当初予定していた工事期間が延びることになった。工事期間の見直しにより生活館棟の完成は令和8年3月となり、見直しによる工事費の増額は1650万円になる予定。
- (4)敷地内の堆雪スペースが限られているため、屋根の雪は載せておく構造とし、屋根面を南・中央・北側の3分割にすることで荷重を分散する。屋根の形状で谷となる部分があるが、屋根材は耐用年数

教育長

45年とされるガルバリウム鋼板と粘着ゴムシートを併用した工法を採用し、雨漏りやすが漏りの防止に配慮している。メンテナンスコストを抑える材料や工法を採用することで、維持管理費の低減を図っている。

- (2)令和6年度に生活館棟の一部建設を、7年度に生活館棟の残り部分と展示館棟の建設および宝物堂の改修を予定しており、その他外構工事を合わせて約14億700万円と見込んでいる。
- (3)高効率な省エネルギー設備や耐用年数の長い資材の使用など、公共施設等総合管理計画の考え方に基ついた建物としている。
- (5)生活館棟の研修室で全国初の公設アイヌ語講座を開催するほか、刺繍やアイヌ文様の木彫り体験講座、アイヌ文化講演会等を、伝承室ではイチャルパ等の儀式や祭司の養成講座を、調理室ではアイヌの伝統料理教室等を開催する。展示館棟の企画展示室では道内

外の博物館等との連携協力による特別展等を開催する予定である。
(6)アイヌ関係者が組織する団体によって指定管理方式で管理運営をすることが望ましいと考えている。
(7)アイヌの歴史と文化に対する理解の促進、次世代に伝えていく役割を担うものにならなければならぬと考えている。

再質問

新たな施設整備に関わっては建設コストだけではなく、運用コスト、保全コストなど維持管理経費も考慮した上で進めなければならぬ。今後発生する施設の維持管理コストは。

答

現時点では積算していないので示すことはできない。



「アイヌ文化拠点施設」
国道東側からみた外観イメージ